

令和8年度 女性のチャレンジ賞表彰

様々な活動にチャレンジしている女性、団体・グループをご推薦ください！

男女共同参画社会の実現のためには、誰もが自らの意欲と能力によって自分の未来を切り開いていくこと、夢や志を実現することが可能であると信じられるような、柔軟で活力ある社会にしていけることが大切です。

そこで内閣府では、起業やNPO、地域活動などにより様々な分野で活躍している身近な女性のモデルを示すことによって、女性が活躍する機運を高めていくため、「女性のチャレンジ賞」を実施しています。

〔表彰の種類・対象〕

（１）女性のチャレンジ賞（４件程度）

起業やNPOなど様々な活動を通じて社会課題の解決を目指すチャレンジ、新たな分野に活躍の場を広げるチャレンジなど、身近なモデルになると思われる女性個人、女性団体・グループ

（２）女性のチャレンジ支援賞（２件程度）

（１）にあるような女性のチャレンジについて積極的な支援を行い、男女共同参画社会の形成の促進に寄与したと認められる個人、団体・グループ（男性による支援を含む）

（３）女性のチャレンジ賞特別部門賞（２件程度）

上記（１）（２）に該当する者のうち、当該年度の特別部門賞テーマに該当する者

令和8年度のテーマ「女性の健康課題に関する取組」

女性の活躍の推進に当たっては、月経、妊娠・出産、更年期などライフステージごとの女性の健康課題や、健康上の特性に配慮することが重要です。また、性差に由来する健康課題や女性特有の生涯にわたる健康課題も含め、女性が健康を確保し安心して暮らせる環境を整備することも重要です。女性の健康支援のため、新たな技術を活用した取組や新たなサービス（カウンセリング、セルフチェック等）などの取組を行っている個人（女性）、団体（企業を含む）、グループを表彰の対象とする。

〔募集締切〕 令和8年2月6日(金)必着

〔応募方法〕 男女共同参画局ホームページの女性のチャレンジ賞募集ページから、推薦調書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、電子メールにてご提出ください。

✉ [g-women.challenge.c9y<@>cao.go.jp](mailto:g-women.challenge.c9y@>cao.go.jp)
（<@>を@に変更して送信してください。）

〔お問合せ〕 内閣府男女共同参画局総務課 女性のチャレンジ賞担当

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1

電話：03-5253-2111（代表）

HP：右のQRコードからアクセスできます。



〔参考：令和7年度女性のチャレンジ賞受賞者、受賞団体一覧〕

月刊広報誌「共同参画」8月号より抜粋（五十音別、敬称略）

女性のチャレンジ賞 受賞者4名



五十嵐 美樹（いがらし みき） 東京都市大学 准教授

環境や性別に関係なく科学に触れるきっかけを創ることを掲げ、身近なエネルギー問題やSDGsをテーマに、得意のダンスを取り入れたオリジナルコンテンツを開発し、子ども達に科学の面白さに触れるきっかけづくりのために全国各地でサイエンスショーを開催している。また、全国各地の中学校・高校での理系女子キャリアイベント等で講師を務めるなど、次代を担う世代への科学教育の普及とジェンダー平等推進の両面でも貢献し、現在も活躍の場を広げている。



桑井 亜乃（くわい あの） アルカス熊谷 ラグビーレフリー

ラグビー界では男女含めて世界で初めて、選手（リオ2016）とレフリー（パリ2024）の両方でオリンピックに出場した。男子15人制ラグビーで国内最高峰の舞台であるリーグワン2024-25シーズンでは、前身のトップリーグ時代を含め女性で初めてレフリーとして選出されている。レフリーに転じて以降も、ハイレベルなトレーニングや、海外留学でレフリー技術を磨くなど研鑽に努め、新たな道を切り開き、挑戦を続けている。



甲賀 かをり（こうが かをり） 千葉大学大学院医学研究院産婦人科学 教授

産婦人科医として多くの手術や外来治療に従事する傍ら、子宮内膜症をはじめとする月経関連疾患を専門に、女性の健康に関する知識普及ひいては男女共同参画を目指し、2012年に日本子宮内膜症啓発会議を設立し、副理事長として、一般市民への疾患啓発や政策提言、企業・自治体と連携した活動を展開した。外科系分野においても、腹腔鏡・ロボット手術の普及・啓発、若手医師の育成、新規技術開発に尽力し、女性医師のリーダーとして活躍している。



西原 麻友子（にしはら まゆこ） 株式会社ベホマル 代表取締役

研究職として15年間企業にて勤務した後、自ら求める「美しい地球を守りたい」という夢の実現のため、自宅の一角で一人で起業し研究に着手した。バイオマスCO₂吸収剤の研究論文から、プラスチックの製造への応用を考え、立命館大学と共同研究を開始。その後、立命館大学BKCインキュベータに入居し本格的に研究開発を行い、使うだけで大気中の二酸化炭素を吸収するプラスチックを開発した。現在は、実用化および商品化に向けてさらに研究を進めている。

女性のチャレンジ支援賞 受賞団体1先



一般社団法人CWAJ（カレッジ・ウィメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン） 会長 ハイディ・ズコスキー・スウィートナム

「女性が女性を支える」という理念のもと、創設以来約900名の学生に奨学金を授与してきた。現代版画展は、すぐれた日本の現代版画を展示・販売して版画の魅力を発信しており、芸術界でも有数の版画展となり、若手の育成に寄与している。この版画展の純益は奨学金・教育プログラム等を資金面で支えている。また、視覚障害者・外国人留学生に対する教育・文化交流プログラム等も提供し、長きにわたり女性の社会進出を支援し続けている。

女性のチャレンジ賞特別部門賞「男女共同参画の視点に立った防災・復興」 受賞者2名



杉本 めぐみ（すぎもと めぐみ） 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授

2004年インド洋津波の復興と防災支援の専門家として在インドネシア日本国大使館や日赤等で活動し、その後20年にわたって国内外の災害支援や災害研究や防災教育に従事。前職の九州大学では女子高校生の夏期理系研究インターンシップ制度「QURIES（キュリーズ）プログラム」の創設等、女性支援や後身の育成にも尽力。過去の南海トラフ地震から着想し、インドネシアに津波伝承碑85基の建設など学際的な研究アプローチだけでなく、国内外の自然災害の現場で女性支援の実務も行う。



根上 昌子（ねがみ まさこ） ねがみみらいクリニック 院長

令和6年能登半島地震の発災翌日から、七尾市にある自身のクリニックを休憩所として開放し、被災した女性や子どもを支援したほか、避難所においてチラシや笛付き防犯ブザーの配布による性暴力被害防止の啓もう活動を行い、女性視点からの避難所運営の支援に尽力した。また、民間団体や有識者を巻き込んだプロジェクトチームを立ち上げ、行政機関とも連携し、被災地で性暴力を受けた際の被害者相談や緊急避妊薬をデリバリーする体制とネットワークを構築し、女性の安心・安全確保に大きく寄与した。